

越境ECによる積極的なアジア戦略 徳島産の和柑橘を用いた産学官連携への挑戦

1908年に雑貨商として創業。戦後すぐに石けんの製造を始め、OEM受託製造を生業とする。現代表への事業承継を機に、自社ブランドへとシフトし、1995年、初めての自社ブランド「Mマークシリーズ」を発売。以後、ボディケア・ヘアケア・スキンケア（ウオッシュ&ケア）と製品を拡充してきた。2006年に山梨県富士河口湖町にて第二工場が稼働。2019年には徳島県佐那河内村にて第6次産業「山神果樹薬草園」事業を立ち上げた。

●所在地	東京都墨田区東墨田2-17-8
●電話/FAX	03-3613-1334/03-3619-1358
●URL	https://www.matsuyama.co.jp/
●代表者	代表取締役社長 松山 剛己

●設立	1930年
●資本金	1,800万円
●従業員数	306人



国内にとどまらず、越境ECサイトを活用して販売網をアジアへ拡大

2016年より越境ECサイトを活用し、中国市場を中心に香港・ベトナム・マレーシア・シンガポールと海外に販売網を広げている。海外展開を開始してまだ数年だが、自社全体の売上高に占める海外売上高は約3割にまで拡大した。中国においては現地SNSに公式アカウントを作成するなどブランディングにも注力。認知度の低い詰替用の普及にも挑戦している。また、在日外国人向けにも工場見学を合わせたイベントを実施するなど、国内外において認知度向上に資するさまざまなことに取組んでいる。



昔ながらの製法「釜焚き練りせっけん」

「身体の内側と外側からすこやかに」でブランド拡大

すこやかな肌を、ウオッシュ&ケアという身体の外側からだけでなく、内側からもサポートしたいという考えから、2015年に飲食事業を開始し、直営店「GREENBOWL」を展開。豊富な野菜を手軽に食べられるスローフードスタンドとして、現在都内に2店舗を構えている。また、前述の山神果樹薬草園では、国内では稀有な方式で天然精油と果汁を抽出。従来とは異なる香り立ちの化粧品、味わいの異なる飲料、食品等の製造販売を進める。商品は、山神果樹薬草園ブランドとして国内外で販売予定。



国産柚子精油を配合したラインアップ

地元産植物を由来とする化粧品原料の研究開発

山梨大学と連携し、地元産のモモを由来とする脂質蓄積酵母を研究。現在は自社でモモ果汁発酵エキスの研究開発を行っている。また、徳島市内に事業所を設け、柚子やすだち等、和柑橘の有効な活用法について、徳島大学・徳島県立工業技術センターと共同研究している。さらに、同県佐那河内村に第6次産業となる山神果樹薬草園を設立。和柑橘の研究農園や、精油、果汁等の加工施設をつくり、地元での雇用や、学生のインターン、UターンやIターンを目的とした就労体験も受入れる計画である。



自社栽培植物を使ったブランドも展開